

市民力かわら版



心身を鍛える！剣道・柔道・空手道の 三武道合同鏡開き開催

一月十一日、矢板市武道館で「矢板市武道連絡協議会」に加盟する剣道、柔道、空手道の三団体合同の「鏡開き」が催されました。各団体が初稽古の後、式典に続き各団体が神様への奉納演武を披露し、その後、参加者全員に餅やけんちんうどんが振る舞われました。

この鏡開き行事の意義や目的について、木村滋会長（剣道）、野崎吉雄理事長（柔道）、岩見忠昭会長（空手道）、高橋芳生事務局長（連絡協議会）にお聞きしました。

***鏡開きでは何をされるのですか？**

神様にお供えした二段重ねの丸もちを小さく割って、ぜんざいやお雑煮に入れ一同で食べることで今年一年の無事と活躍を祈念するとともに、その年の稽古始めをする伝統の行事です。



***武道館で三つの団体が合同で開催するわけは？**

十数年前までは、各団体が個別に行っていました。招待者（例：市長や教育長等）は連日出席しなければならぬことから、話し合っただけで一度にまとめることにしました。

***武道の目的は**

日常生活での人間形成の場として、心身ともに強くなるよう指導しています。

よく「礼に始まり礼で終わる」と言われていますが、礼は単なるお辞儀だけではなく、礼儀作法が重要です。

また、試合に勝つことだけが目的ではありません。試合の選手を選ぶ際には、ただ強いだけでなく



く真面目に練習をしているかも合わせて判断基準にしています。

今年の鏡開きの準備は剣道が幹事役となっていますが、他の団体の保護者も一緒になって、お餅を二十升、けんちんうどんを二百人分用意しました。

***保護者の方にお聞きしました**

剣道保護者会・清武会長の
お子さんは、
高一（二段）
小六（二級）
小四（四級）
で、今は下に二人が稽古に通っています。

主人が剣道の指導員をしているので自然と子どもたちも習うようになりました。剣道を習わせて、礼儀作法が良くなったと他の人から言われますし、身体が丈夫になりました。



空手道の親の会・富田副会長は、子どもは最初は塩谷町の支部で習っていましたが、矢板に移りました。中一で少年部の二段をもらっています。きっかけは一人っ子でけんかする相手も無く自分だけの生活だったので、試しに稽古に行かせたら丁寧に教えてくれたので続けるようになりました。黒帯がもらえて自信が付き、自分の考えもブレることなくこれからも続けると言っています。

大会を通じて友達もでき、将来は全国大会に出たいと意欲を持っていて、親としても嬉しく思っています。

(T・M)

